



エコパートナーシップうじたわら

うじたわらの木くん

～茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまら～

発行日：2020年12月20日（第82号） 編集・発行：エコパートナーシップうじたわら広報部会
事務局 TEL（88）6639 FAX（88）3231

美しい宇治田原の秋

今年は新型コロナウイルスの世界的な蔓延は、未だに収束（終息）が見えず、梅雨時の長雨による災害に苦しみ、さらに、大型の台風の到来と、気象異変による地球環境の変化には気の休まる時がありません。

こんな時こそ、美しい大自然の風物に触れ、草木の花や、紅葉への彩に、また、すだく虫たちの音色に傾聴するひとときが欲しいものです。仰ぐ星も美しいですね。

特に、宇治田原の美味しいお茶を淹れては、美酒一献の盃を愛でるのもよいでしょう。

秋。草花は優しい心してくれます。万葉の時代、約1,300年前に、山上憶良（やまのうえのおくら）は、秋の七草について、二首を詠んでおります。うれしいことですね。

「秋の野に 咲きたる花を指（をよび）折り かき数ふれば 七種（ななくさ）の花」万・巻八・1537 首
「萩の花 尾花葛花撫子の花 女郎花（おみなえし）また藤袴 朝顔の花」万・巻八・1538 首
の二首が広く知られることになりました。

- ・萩（ハギ）はマメ科でお月見には欠かせぬ花です。
 - ・尾花（おばな）はススキのことで、イネ科の植物です。
 - ・葛花（くずばな）はクズの花で、マメ科のつる植物です。
 - ・撫子（ナデシコ）はナデシコ科の花で、山すそや川原に生えています。
 - ・女郎花（オミナエシ）はオミナエシ科で、小さな黄色の花です。
 - ・藤袴（フジバカマ）はキク科で薄いピンクの小さな花です。
 - ・朝顔は、私たちが夏の朝に鑑賞するアサガオではなく、キキョウのことで、キキョウ科の紫の花の種と、白花の種がありますが、万葉時代の人々は「あさがほ」と呼んだのでしょうか。
- ヒガンバナ（曼殊沙華）ヒガンバナ科の赤い花の列が苺田の畔に並ぶのもほっとしますね。

さあ、秋の味覚、栗や里芋、サツマイモにブドウやナシの実もいただきましょう。エエッ？松茸は宇治田原の山にありますでしょうか。今や日本では危惧種第3ランクの絶滅危惧種となりました。輸入品でもええから焼き松茸や松茸ご飯が食べたくなりましたね。ザンネン。（副会長 阪本伊三雄）

編集部補足：マツタケについて

マツタケ（学名 *Tricholoma matsutake*）ハラタケ目キシメジ科キシメジ属

アカマツなどマツ属の樹木と共生し、秋に子実体（きのこ）を発生させる。古くから日本人に食用として好まれるが、アカマツ林の衰退とともに年々生産量が減少。国内で流通する大部分は海外からの輸入品。

日本人はその香りに魅了されるが、欧米では「靴下のおい」と例えられるように悪臭とされている。

世界中に近縁種が分布しており、ヨーロッパに分布する *T. nauseosum* とは DNA の解析で同種であったことが判明している。

生きた樹木と共生するため、長らく研究されているものの人工栽培（シイタケなどのように人工的な基質上で子実体を発生させること）には成功しておらず（近縁種のバカマツタケ（*T. bakamatsutake*）は2018年に人工栽培に成功したというニュースがあった）、一方で「マツタケとシイタケが融合した新しいきのこ」とうたった製品（そのようなことはありえない）が出回る始末。

京都府のレッドデータ2015では「準絶滅危惧種」、環境省では「準絶滅危惧種（NT）」として掲載されている。減少傾向は国内だけでなく世界的にもみられ、2020年7月には国際自然保護連合（IUCN）が絶滅危惧種に指定した。

与謝蕪村が「宇治行」でマツタケ狩りに興じたことを詠んだ光景も幻になりつつある。



秋分のころ・佐保姫をまつる
(子どもたちへの唄)

わかもと いさお・詩

田んぼの畦(あぜみち)
マンジュシヤゲ

列をただして並びます。

田畑の神さま

佐保姫さまの

山へお帰り なるる日だ。

みんなで見送り

柏手 打って

紋付羽織の

アゲハチョウ

モンシロチョウとシジミチョウ

お神楽舞いを

しずしずと

スズムシ・コオロギ

鈴を振る。

ミンミンゼミが

祝詞をあげ

カナカナゼミが

唱和する。

ほら貝 吹いてる

キジバトは

ぶろっほ ブロッホ

杉木立。

お団子 供える

ダンゴムシ

稲刈り 終えたか

カマキリ 爺さん

水口小石で

鎌を研ぐ。

ノギクも やさしい

そよぐ風。

佐保姫さまは

絹の裳裾(もすそ)をひるがえし

峠の空へと サヨウナラ!

「また 新しい年

田んぼの 春に

きつと きつと

来て ください。」

お神酒を

たんと いただいて

夕陽に染まった アカトンボ

あちこち ひよろり

ちどりの羽根。

これで 山里

しずかに なった。

モミジ 綾なす

水彩画。

二〇二〇年九月二十二日・作

今年は新型コロナウイルスの影響で様々なイベントが中止となっていますが、例年、エコパートナーが展覧していた「ふるさとまつり」も、町内の身近な自然や歴史に触れる「自然体験ハイキング」も中止となりました。「第3波」の到来ともいわれるほど感染者が増加している現状では、当面のイベント・事業の実施は難しい状況にあります。

立冬のころ・竜田姫をまつる(子どもたちへの唄)

わかもと いさお・詩

秋から冬へ スミシの花の 咲くまでの

田畑の神様 招きます

竜田(たつた)姫様を 迎えますよう。

田んぼの切り株

霜の色

朝夕 めっきり 冬支度。

音頭とるのは いつものように

キチキチ モズの 吉平さん

こずえのてっぺん 独りじめ

カラタチの針にお供えを

キチキチきっちり 贈ります。

カラスのまくら スズメウリ

フウセンカズラも からころと

かわいた 鈴の音

鳴らします。

竜田の姫さま

お悦び

浅葱の衣も美しく

霧と舞い散る

紅葉狩り。

ツルリンドウの

紅い実は

竜田の姫さま 胸飾り

シオデの房の実 耳かざり。

水田(みずた)のほとりヒオトープ

トンボがちよんちよん

たまご 産む

首をかしげる

スズメたち。

お祝い ご飯は 赤マンマ

南天の粒も 添えましょう

山のブドウ酒も召し上げれ。

そろそろ 木枯らし紋次郎も

ひゅるる ひゅるひゅる 笛を吹く

筒竹の音は 虎落(もがり) 笛

三味線ひいてる 送電線

椎の実 ドングリ とんトコトン

小太鼓打ちます 敲(たた)きます。

茶山 茶の花

鶴ノ子柿が

鈴なり つやつや 光ってる

柿屋の古老柿 甘くなれ

箕でひる 何度も転がして

白い粉な ふきや

竜田の姫さまへ

ウンと「ちそう」 いたしましょう。

「レンゲの花の咲くまでは

竜田姫さま 居てください。

わたくしたちの お友達!」

二〇二〇年十一月三日・作



お問い合わせ先：エコパートナーシップうじたわら事務局 (宇治田原町役場 建設環境課内)

〒610-0289 京都府綴喜郡宇治田原町大字立川小字坂口 18-1

TEL 0774-88-6639 FAX 0774-88-3231 Eメール: junkan@town.ujitawara.lg.jp

会報のバックナンバーをご覧ください

宇治田原町役場ホームページ「トップ」⇒「環境衛生」⇒「エコパートナーシップうじたわら」

エコパートナーシップうじたわら facebook ページ公開中



茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまち 宇治田原